

| | |
|---------|---|
| 氏 名 | 岩 谷 佳 代 子 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 5019 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 26 年 6 月 30 日 |
| 学位授与の要件 | 医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当) |

| | |
|--------|---|
| 学位論文題目 | Low-grade B-cell lymphoma presenting primarily in the bone marrow (骨髓原発と考えられる低悪性度B細胞性リンパ腫について) |
|--------|---|

| | |
|--------|-----------------------------|
| 論文審査委員 | 教授 尾崎 敏文 教授 加藤 宣之 准教授 金廣 有彦 |
|--------|-----------------------------|

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

骨髓原発と考えられる低悪性度 B 細胞性リンパ腫については、臨床病理学的な特徴がまだよく分かっておらず、これらについて後方視的研究を行った。症例は全症例約 12,000 例のうち 199 例が骨髓に病変がある低悪性度 B 細胞性リンパ腫で、そのうち 14 例が骨髓原発と考えられた。内訳は 5 例のリンパ形質細胞性リンパ腫 (LPL)、3 例の慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL)、2 例の濾胞性リンパ腫 (FL)、4 例の低悪性度 B 細胞性リンパ腫分類不能 (LGBCL-NOS) であった。IgM の M タンパクが 6 例で、IgG の M タンパクが 3 例で認められた。中央値 36.5 か月の follow up 期間で 3 例が死亡し、うち 1 例が原病死であった。全例で CD20 が陽性であった。2 例の濾胞性リンパ腫では、CD10 と BCL-2 が陽性で、FISH で *IgH/BCL2* が陽性であった。The myeloid differentiation gene (88) (*MYD88*) L265P の変異は LPL で 5 例中 3 例、FL で 2 例中 1 例、LGBCL-NOS で 4 例中 2 例で陽性であった。LGBCL-NOS は症例の約 1/3 を占め、*MYD88* L265P の結果からリンパ形質細胞性リンパ腫や辺縁帯 B 細胞性リンパ腫に近いものもあると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

骨髓原発と考えられる低悪性度 B 細胞性リンパ腫については、臨床病理学的な特徴がよく分かっておらず、今回後方視的研究を行った。全症例約 12,000 例のうち 199 例が骨髓に病変がある低悪性度 B 細胞性リンパ腫で、そのうち 14 例が骨髓原発と考えられた。内訳は 5 例のリンパ形質細胞性リンパ腫 (LPL)、3 例の慢性リンパ性白血病/小リンパ球性リンパ腫 (CLL/SLL)、2 例の濾胞性リンパ腫 (FL)、4 例の低悪性度 B 細胞性リンパ腫分類不能 (LGBCL-NOS) であった。IgM の M タンパクが 6 例で、IgG の M タンパクが 3 例で認められた。中央値 36.5 か月の follow up 期間で 3 例が死亡し、うち 1 例が原病死であった。全例で CD20 が陽性であった。2 例の濾胞性リンパ腫では、CD10 と BCL-2 が陽性で、FISH で *IgH/BCL2* が陽性であった。The myeloid differentiation gene (88) (*MYD88*) L265P の変異は LPL で 5 例中 3 例、FL で 2 例中 1 例、LGBCL - NOS で 4 例中 2 例で陽性であった。LGBCL-NOS は症例の約 1/3 を占め、*MYD88* L265P の結果からリンパ形質細胞性リンパ腫や辺縁帯 B 細胞性リンパ腫に近いものもあると考えられた。

審 査 概 要:

これは重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。